

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-155647

(43)公開日 平成10年(1998)6月16日

(51)Int.Cl.<sup>8</sup>  
A 4 7 J 17/02

識別記号

F I  
A 4 7 J 17/02

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平8-353431

(22)出願日 平成8年(1996)11月27日

(71)出願人 593136535

吉田 清利

東京都中野区上高田3丁目8番6号

(72)発明者 吉田 清利

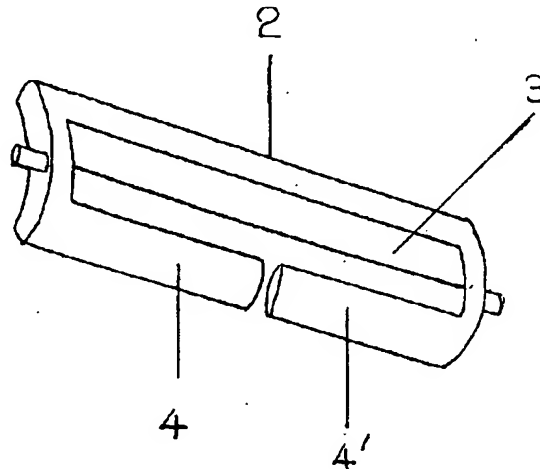
東京都中野区上高田三丁目八番六号

(54)【発明の名称】 野菜皮むき器

(57)【要約】

【目 的】 この発明は、ピーラー（野菜の皮むき器）のカッター部の案内板の構造を工夫することによりむく皮の厚さを自由に変化させることができるようにするための装置に関するものである。

【構 成】 ピーラー本体1のカッター部2のブレード3に相対する案内板を中心部を境に左右一對の4と4'の二枚構造にしたものである。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ピーラー（野菜皮むき器）に取り付けられているカッター部のブレードに相對している案内板を中心部を境に左右二枚に分割する。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、従来使われているピーラー（野菜皮むき器）のカッター部の案内板を左右一対にしたものに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来のピーラー（野菜皮むき器）は、包丁で野菜の皮をむくのに対して非常に能率的に皮をむくことができ、安全で便利であった。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】便利であったが、一つ不便なことがあった。それは、皮をむく時、常に一定にしか、皮をむけないという問題であった。本発明は、こうした不便を簡単な構造の工夫により解決したものである。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】いま、その構成を説明すると、（イ）ピーラー（野菜皮むき器）1のカッター部2のブレード3に相對する案内板を中心部を境に左右一対の4と4'に分割する。以上のように構成するものである。

## 【0005】

2

【作用】次に、本発明の作用をのべると、従来のピーラー（野菜皮むき器）のカッター部の案内板が、一枚の固定されている板であるために一定の厚さにしかむけなかったが、それを本発明では案内板を中心部を境に左右二枚にすることにより、弾力性を確保し、案内板の中心部が対象物に対して自由に変化することができ、その結果、力のかけ具合によりむく皮の厚さを、自分の好みにすることができる。

## 【0006】

10 【実施例】なお、案内板は二枚にしなくても、弾性力を持つ素材で代替させても同じ効果を得ることができる。

## 【0007】

【発明の効果】このように案内板を工夫することにより、自由にしかも簡単に、フレキシブルに変化することができ、むく野菜の皮を好みの厚さにすることができるので、今まで以上に便利である。

## 【図面の簡単な説明】

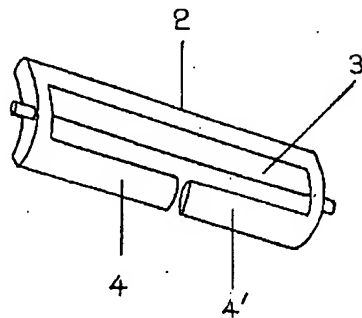
【図1】本発明の斜視図

【図2】本発明の使用斜視図

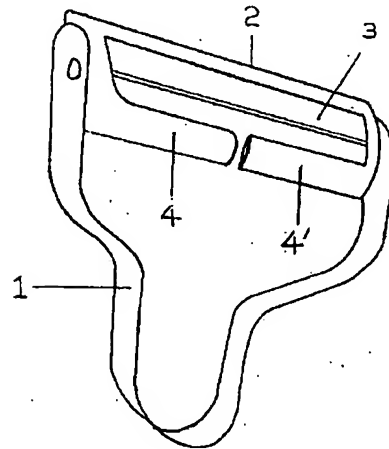
## 20 【符号の説明】

- 1 ピーラー（野菜皮むき器）本体
- 2 カッター部
- 3 ブレード
- 4 案内板
- 4' 案内板

【図1】



【図2】



(3)

特開平10-155647

【手続補正書】

【提出日】平成9年3月15日

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正内容】

【発明の名称】 野菜皮むき器